

県南における学校・家庭・地域連携総合推進事業は今

☆第 1 回県南地区指導者等研修会☆

6 月 18 日、横手市浅舞公民館において放課後子どもプランとわくわく土曜教室推進事業に関わる指導者等 170 名が一堂に会し、研修会が開かれました。

横手養護学校教育専門監 佐々木義範氏の「気になる子どもの理解と支援について」の講話は、放課後や土曜日の子どもの居場所となっている各事業の指導者のニーズに即した適切な内容であり、参加者は熱心に耳を傾けていました。支援を要する子どもに対して、カードや簡単な言葉等で示せば効果的であることなど、具体的な支援の仕方を話していただいたことで、個々への対処の仕方を学ぶことができたといえます。子どもたちの願いの実現に向けて、段階的に支援していくことで、子どもにも指導者にもゆとりが生まれ、よりよい方向に導くことができると思います。

☆県南地区コーディネーター等研修会☆

7 月 15 日、横手市浅舞公民館において県南地区コーディネーター等研修会が開かれました。

学校支援地域本部や放課後子ども教室のコーディネーター等 45 名が参集し、湯沢南地区学校支援地域本部の半田祐子氏と大雄子ども教室の小棚木朋子氏・遠藤千秋氏による実践発表を聞いた後、8つのグループに分かれて、情報交換をしました。これから事業に取り組もうとしているところも、現在進行形のところも、多くのアイデアを得たようです。

☆夏休み中の市町村の取組を紹介します☆

○美郷町

～グラウンドゴルフで広がった輪～



7 月 24 日、美郷町わくわく土曜教室推進事業「わくわくサマースクール 2014」の 1 回目が開かれました。

今回は、「グラウンドゴルフをしよう」という企画のもと、千畑地区大台野広場を会場に小学生 28 名が参加してグラウンドゴルフを楽しみました。指導者として、みさと世話好きマイスター、みさぽーたー、生涯学習奨励員 11 名が、4 名 7 班に分かれた子どもたちのサポートにあたりました。

参加した子どもたちの表情は、満足感や充実感にあふれており、成果が十分であったことが感じられました。

○東成瀬村

～祖父母と共に縄文時代体験活動～



7 月 25 日、東成瀬村では、放課後子ども教室夏休み特別企画「仙人郷『虎の穴』縄文時代体験教室」が開かれ、児童 13 名、祖父母等 10 名が参加しました。

元埋蔵文化財センター所長櫻田隆氏を講師に迎え、専門的な説明を受けながらの有意義な活動が展開されました。

区域内のどこを掘ってもすぐに石器や土器の破片が見つかるという好条件であり、祖父母と共に発掘作業や土器づくりを楽しむ様子はほほえましく感じられました。

体験活動における「わくわく感」は、子どもを集中させ、成長につながるものであると思います。

○横手市 ～茶道体験で日本の伝統文化を知る～

8 月 6 日、大森子ども教室では、茶道体験教室が開かれました。

13 名の児童が参加し、正座やお辞儀の仕方、お茶の飲み方や出し方等、日本文化としての茶道を体験しました。しびれない座り方等を知り、徐々に凛とした美しい姿が見られるようになりました。時間の経過とともに意欲が高まり、最後には、自分でお茶を点てて味わったほほえみでした。

日本古来の文化の形を知り、日常生活に生かすことができる体験の機会となったようです。



羽後町「子ども司書養成講座」 ～第2期生26名でスタート～

7月12日、羽後町立図書館で「子ども司書養成講座」が開かれ、26名の児童生徒が参加しました。昨年受講して子ども司書の資格を得た5名の第1期生もお手伝いとして加わっており、意欲が継続していることが感じられました。



開講式、オリエンテーション、自己紹介の後に行われた県立図書館職員による講義では、集中して参加し、熱心にメモをとる姿が印象的でした。

羽後町立図書館は、今年度、子どもの読書活動優秀実践図書館として全国表彰を受けており、ますます活動内容にも深まりと広がりが出ているようです。

- 第1回 開講式・オリエンテーション
図書館の仕組みと司書の仕事
- 第2回 本の選び方・読み語りの練習
- 第3回 郷土学習「羽後町めぐり」
- 第4回 手作り絵本講習会
- 第5回 参考資料の使い方・ポップ作り
- 第6回 本の分類・ブックカバーのかけ方
- 第7回 羽後町立図書館での司書体験
- 第8回 昔語り体験
- 第9回 ブックフェスティバル
柳田邦男氏講演会・司書修了認定式

「打って出る司書」市町村訪問に同行しました

県立図書館「打って出る司書」の市町村訪問に同行し、県南地区5カ所の図書館の読書活動推進の様子をうかがってきました。

この度の訪問では、今年度の支援の説明、課題等に係る事前アンケートについての質疑応答、館内視察、昨年度との比較等がなされ、支援が大変丁寧に行われているという印象を受けました。各図書館の整備状況が素晴らしく、これまでの支援の成果を物語っていました。



県立図書館・市町村図書館と小学校・中学校・高校との連携を充実させるには互いに情報を共有する必要があることや、児童生徒の発達段階に応じた支援のあり方等について、社会教育アドバイザーとして、学校に関係した者の立場で助言させていただきました。

今後も読書活動推進の一端を担うことができると考えています。

美の国アクティブカレッジ 地域マイスター養成講座 横手キャンパス



5月16日から始まった地域マイスター養成講座は7月27日に最終回を迎え、6名のマイスターによる自主企画「生活の達人に学ぼう」が行われました。

異世代交流を通して、方言カルタやもぎたての野菜焼きなど地域のよさを伝えるための工夫された活動が行われました。普段の生活ではできない体験に、子どもたちは目を輝かせながら取り組んでいました。キュウリの冷汁に舌鼓を打つ姿も見られました。「来てよかった」の声や、各場面での子どもたちの生き生きした様子から、活動が充実していたことがうかがえました。

いろいろな人との関わりは、子どもたちの「コミュニケーション能力」を育み、協力しながらみんなでなす遂げる力をつけることになったと思います。今回の講座は、「生きる力」の育成につながる絶好の機会となりました。

ちょこっとコラム ～足並みそろえて～

横手市横手交通安全母の会連合会からの依頼を受け、横手市役所条里庁舎で子育てに関する講話を行いました。

会場には、黄色いスカーフをカッコよく首に巻いたお母さんたちが勢揃い。交通安全に対する強い思いと連帯感が感じられました。

話の中で、コミュニケーションと実態把握を兼ねて、子育てに関する質問をしてみました。肯定の挙手が一番多かったのが「こんな子どもに育ててほしいという思いをもっている」、半々だったのが「子育てについて家族との共通理解を図っている」、一番少なかったのが「自分の子育てに自信がある」でした。

教育ビジョンをもって子育てがなされているのは、とても望ましいことだと思いました。父親や祖父母等との共通理解を図ることは、簡単ではないようですが、子育ての重要なポイントです。足並みをそろえての子育ては、子どもに安心感を与えます。

いろいろな機会を大切にし、そこで得た情報を取捨選択しながら子育てしていく姿勢が、大事だと思います。